

2021年度聖学院大学自己点検評価 総括

聖学院大学内部質保証推進 IR 委員会

① 2021年度聖学院大学自己点検・評価 概要

(目的)

聖学院大学は、聖学院大学 内部質保証推進 I R 委員会内規第 1 条第 1 項に定める「大学学則第 2 条に定める本学の設立目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育研究活動等の状況を把握したうえで、教育研究の改善に努めること」を目的とし、自己点検・評価を実施する。

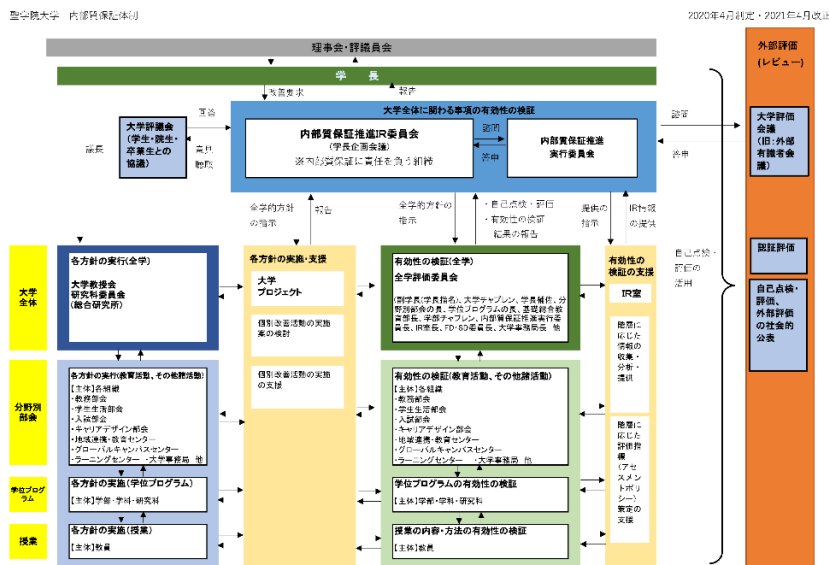
(体制)

聖学院大学における自己点検・評価は、聖学院大学 内部質保証推進 I R 委員会内規第 11 条第 1 項に定めるとおり、内部質保証推進 IR 委員会から全学的方針の指示を受けて設置される全学評価委員会が実施する。各組織は、全学評価委員会の指示を受け、それぞれ所管する事項について、自己点検・評価を実施する。全学評価委員会構成員は、聖学院大学内部質保証推進 I R 委員会内規第 11 条 3 項により組織される。

(自己点検・評価制度)

聖学院大学内部質保証推進 I R 委員会内規第 2 条のとおり、自己点検・評価は本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備に係る組織の全てにおいて実施し、各組織は、I R 室より提供される客観的な根拠資料又はデータに基づき、教育研究等の状況を組織的かつ定期的に把握し、改善に努めることとしている。

2020 年度より本学は新たな内部質保証体制を構築した。2021 年度、内部質保証推進 I R 委員会より諮問を受けた内部質保証推進実行委員会は「聖学院大学アセスメントポリシー」の内容を含めた部署別の自己点検・評価項目を作成し、この項目を中核として内部質保証推進 I R 委員会は自己点検・評価制度を改定した。2021 年度は、新しい自己点検・評価の実施初年度となる。



② 2021 年度自己点検・評価 実施内容

2022 年 2 月 16 日内部質保証推進 IR 委員会決定の自己点検・評価制度に基づき、以下の通り自己点検・評価を実施した。

I、各組織の自己点検・評価（2022 年 3～5 月）

- ① 全学的観点から設定された部署別の自己点検・評価項目により自己点検・点検を実施。
- ② ①を踏まえて当該年度のアジェンダを総括。評価が 3～5 の場合は必ずコメントする。
- ③ ②を踏まえて新年度のアジェンダ（改善計画）を作成。

自己点検・評価項目には「聖学院大学アセスメントポリシー」の内容を含め、アジェンダをより総合的にしている。また自己点検・評価項目は、1. 教育研究組織 2. 入学者選抜、3. カリキュラムの内容・学修方法・学修支援又は学修成果（教育課程・学修成果）、4. 学生支援、5. 社会との接続 6. 施設・設備とした。

II、全学評価委員会による自己点検・評価の確認評価（改善案を含む）（2022 年 5～6 月）

I で行われた各組織の自己点検・評価を、全学評価委員会により確認・評価を行い、全学評価案を内部質保証推進 IR 委員会にて審議し改善指示を取りまとめる。

③ 2021 年度自己点検・評価の確認結果・改善指示

1. 全学評価委員会による自己点検評価の確認結果

各組織の自己点検・評価内容について、全学評価委員会が確認を行った結果、自己点検・評価内容は概ね妥当であると判断された。また、一部の評価について、再度確認を指示し、評価内容を変更した。

2. 全学評価委員会による 2021 年度アジェンダ総括・2022 年度アジェンダの確認結果

各組織の 2021 年度アジェンダ総括・2022 年度アジェンダについて、全学評価委員会が確認を行った結果、概ね妥当であると判断された。

また 2021 年度アジェンダ総括・2022 年度アジェンダへの指摘・改善への助言は以下の通りである。

【政治経済学部】

(2022 年度アジェンダ)

政治経済学科の 3 ポリシーの内容見直しに着手し、これを通じ、学部の設置目的と本学の理念・目的との整合性、また学問の動向や社会の要請との適合性を高めることを実現していただきたい。

【人文学部】

(2021 年度アジェンダ総括)

自己点検評価項目 Q1 当該組織の設置目的に関する評点は 3 とされているが、「人文学」の性質上、「社会の要請」への適合は慎重に検討されるものと理解される。その中において学部・各学科の教育目的が丹念に顧みられている。

その一方、自己点検評価項目 Q3 「関連する規程・内規により、責任主体・組織、権限、手続が明確になっているか」では 5 の評点がつけられており、この点についても総括されることが望まれる。

(2022 年度アジェンダ)

課程修了時に学生が修得される能力を具体化するという作業は教育方針を考えるうえでも重要なものであり、進展が期待される。広報戦略の策定作業もその中で設置目的や活動内容への点検・評価につながりうると考えられる。

ただし、自己点検評価項目 Q3 では5の評点がつけられており、2021 年度の総括とともに対応に向けた動きが求められる。

【心理福祉学部】

(2021 年度アジェンダ総括)

自己点検評価項目 Q4「教員の募集・採用を適切に実施しているか」の評価が「3」となっており、その理由が「…福祉系教育を担う教員の負担が過重な面があり、増員が求められる」という記述に見られるので、増員・補強すべき福祉系教育を担う教員の担当科目等を、学部カリキュラム全体像の視点の下での必然性をより具体的に明記することが望まれる。

(2022 年度アジェンダ)

「2021 年度アジェンダ総括」における自己点検評価項目 Q4 における課題を 2022 年度に実現する観点から、「今年度定年退職となる教員」の担当科目の明示、「専任教員の増員」を求める必然性を示す具体的な科目の明記について、2022 年度中に学部において検討し、その結果を 2022 年度末総括において報告するべく、着実に取り組むことが望まれる。

【基礎総合教育部】

(2022 年度アジェンダ)

自己点検評価項目 Q3「関連する規程・内規により、責任主体・組織、権限、手続が明確になっているか」における「聖学院大学 基礎総合教育部会規程」の、「現在の教育課程を反映した内容」への改定、Q7 における「学則別記 学部又は学科の教育研究上の目的」「基礎総合教育部のカリキュラム・ポリシー」の、「現在の教育課程を反映した内容」への改定という課題を着実にを行うことが望まれる。Q4「教員の募集・採用を適切に実施しているか」に関連して、「必修であるデジタルシティズンシップ科目群の教育課程」を実質的にコントロールする専任教員の確実な配置が望まれる。

【政治経済学部政治経済学科】

(2022 年度アジェンダ)

自己点検評価項目 Q3「新入生の志望理由が学科の教育とどのぐらい合致しているか」、Q4「新入生の学力はどのぐらいか」について「3」の自己点検・評価の結果を踏まえ、入学試験形態、出身校、入試得点などの属性と入学後のマッチング、学業成績との相関関係分析を是非とも行っていただき、同設問に関する結果改善を期待したい。

【人文学部欧米文化学科】

(2021 年度アジェンダ総括)

入学者選抜は適合性が高く、学生支援も丁寧に行われている。総括の中で言及されているとおり、学科内での情報共有がより密に行われるとよいと思われる。教育課程については問題点の把握がなされており、改善に向けた機運がうかがえる。今後も着実に実行されることが望まれる。

定められた修業年限での卒業と日本人卒業生の進路決定率は厳しい値を示しており、すでに対応がなされていることは理解されるが、引き続き真摯な対応が求められる。

(2022 年度アジェンダ)

教育課程・学修成果に関して、カリキュラムや授業のあり方の検討、改善がかなり具体的に展開されることが見込まれるものとなっている。学位授与方針との関連が 2021 年度は「3」となっているところからその点も意識した上での検討が望まれる。その際、学習成果を把握・評価する方法、その結果を踏まえた形での検討も行われるとより適切なものとなるであろう。

また、「DP ルーブリック」や「学修ポートフォリオ」による学習成果の把握・評価する仕組みの活用についても 2022 年度以降の継続した検討が望まれる。

【人文学部日本文化学科】

(2021 年度アジェンダ総括)

カリキュラムのあり方について学科教員全体での理解をはかり、履修指導を行う体制は、教育方針に則った授業設計や学生支援などにも波及するよい取り組みと考えられる。今後継続して実施されている中で見られた成果を全学的に共有されることを望む。

定められた修業年限での卒業率については総括で言及されているとおり新型コロナウイルスの感染状況などに左右された部分は大きいと思われる。経年的な変化については引き続き注視されたい。

(2022 年度アジェンダ)

入学者選抜の方針は教育課程のあり方と連動してよい方向にあるとみられる。今後は学位授与方針に則った学習成果の測定およびその評価を含みつつ、よいサイクルが継続されることが期待される。

あわせて、「DP ルーブリック」や「学修ポートフォリオ」による学習成果の把握・評価する仕組みの活用についても 2022 年度以降の継続した検討が望まれる。

【人文学部児童学科】

(2021 年度アジェンダ総括)

DP ルーブリック導入による教育課程の振り返りや学習成果の把握がよい効果をもたらしている。初年次教育は適切であると評価されているものの、具体的な問題点も自己評価の中で指摘されており、今後の改善が望まれる。

(2022 年度アジェンダ)

学科名の変更という大きな変化があるため、その対応が重要な事項となると思われるが、DP ルーブリックを用いた教育課程の見直しも盛り込まれており、その成果が期待される。

【心理福祉学部心理福祉学科】

(2021 年度アジェンダ総括)

自己点検・評価項目 Q16「定められた修業期間でどのくらいの学生が卒業できたか」における学科の特性に考慮した対応は丁寧であり細やかな指導がなされている。他方、Q1「教育上主要と認められる授業科目に専任教員（教授、准教授等）を適切に配置しているか」の現状は改善が望まれることから、該当演習科目名を明記することが望まれる。

(2022 年度アジェンダ)

自己点検・評価項目 Q17 卒業時点までの資格を取得に関する設問に関する改善のための方針が具体的かつ明確であることは適切であると判断する。方針が着実に実施されることが望まれる。Q1 の福祉領域専任教員の新規任用必要性については、具体的な不足する担当科目の必然性を明記するべく、2022 年度中に学科において検討し、その結果を 2022 年度末の総括において報告することが望ましい。

【政治政策学研究科】

(2022 年度アジェンダ)

大学基準協会の認証評価結果における指摘を踏まえた改善への着手を期待したい。

【文化総合学研究科】

(2022 年度アジェンダ)

大学基準協会の認証評価結果における指摘を踏まえた改善の方向性が示されている。長期的な対応となると思われるが、着実な実行が望まれる。

【心理福祉学研究科】

(2022 年度アジェンダ)

2021 年度の総括から見いだされた「3 教育課程・学修成果」における課題に対し、2022 年度内に整備する点として具体的かつ明確な対策が示されており適切であると判断できる。着実に実施されることが望まれる。

【総合研究所】

(2021 年度アジェンダ総括)

基礎マネジメント研究による産学官連携における着実な成果があり、競争的資金獲得ための支援策も軌道に乗っていることが示されている。

【ラーニングセンター】

(2022 年度アジェンダ)

ラーニングセンターの存在、及び、活用方法の全学生への周知には、今後も継続的、意欲的に学内諸部署と連携して取り組むことが望まれる。またコロナ禍で一部学生に高評価であったオンライン指導は、今後も、学生の特性・ニーズに合わせて、対面指導と並行しながら適宜取り入れてゆくことが望まれる。

【教職支援センター】

(2022 年度アジェンダ)

指導相談員が増員されたことに伴い、より丁寧で個別的な学生支援の計画が立てられており、その成果が期待される。「4 学生支援(Q5)」では、昨年度に生じた事例が再び生じぬように、教員採用試験に関わる情報（留意点等）の適切な把握と関係者間での共有、それに基づく学生指導の方法に関する検討が求められる。また、昨年度の教員採用試験の成功要因に基づいた学生のキャリア支援の方策も今後検討することが望まれる。

【地域連携・教育センター】

(2022 年度アジェンダ)

「1 教育研究組織」および「4 学生支援」においては、2021 年度に拡大した包括連携協定にもとづいて、本学学生の派遣を図る等のさらなる発展、学内組織との連携、さらにニューノーマルに適した事業運用が適切に計画されている。

「5 社会との接続」においては、2021 年度に発足した「地域連携活動助成金事業」について、センターの事業としてさらなる発展が適切に企図されている。

【入試部委員会】

(2021 年度アジェンダ総括)

自己点検・評価項目 Q2「入学希望者に求める水準等の判定方法は適切か」の自己点検評価が「3」であることに関連し、いかなる検討課題があるかについての記述がないことから、この点についての自己点検・評価、総括が明記されることが望まれる。Q5「入学者の定員管理は適切に行われているか」に関連して 86.1%の充足率となったことについての自己点検・評価、総括の具体的記述が追記されることが望ましい。

(2022 年度アジェンダ)

2023 年度入試において、「…オープンキャンパス等で学科の学びについて学科教員がロールモデルを用いながら説明する」とあるが、新しい取組であることからその実施内容の詳細をわかりやすく具体的に明確化するよう務め、2022 年度中に実施した結果を 2022 年度末の総括において報告することが望まれる。「2021 年度アジェンダ総括」において記述が欠けていた、「充足率 86.1%となったこと」の総括についてどのような分析と対策を講じることとするのかについて、2022 年度中に部署内で検討、共有のうえ着実に実施し、その結果を 2022 年度末の総括において報告することが望まれる。

【教務部委員会】

(2021 年度アジェンダ総括)

「その他」の項目において前年度のアジェンダに基づいた総括が複数記載されているが、新型コロナウイルスの感染状況に左右される中で目標に届いていないことが顧みられている。引き続き改善に向けた取り組みが望まれる。

(2022 年度アジェンダ)

離学者対策は喫緊の課題であるとともに、教育課程を検討するうえで学位授与方針に則った学習成果の測定についての検討も重要な事項である。教育開発センターや教育改善プロジェクトとの連携の中で着実な進展が望まれる。

【学生生活部委員会】

(2022 年度アジェンダ)

諸物価高騰をうけての学生食堂メニュー変更はやむを得ない面があるため、この時期に学生へのアンケートを行うことは適切である。

【キャリアデザイン部委員会】

(2021 年度アジェンダ総括)

コロナ禍で減ったインターンシップ受入先企業を開拓し、実習に参加できた学生数を増やしたことは特筆できる。また、卒業生の進路決定率に関する提案も、検討に値する。ただし、卒業生が身についたと回答した能力および就職先企業側より卒業生が身につけていると回答された能力のいずれにおいても、「3」評価となっている「数量的スキル」に対する改善提案が望まれる。

外部講師を利用した「数量的スキル」の学び直し講座が効果的だったと聞いている。キャリア教育科目への導入あるいは改編により、こうした講座の受講を学生に課すことができるのではないか。

(2022 年度アジェンダ)

年次生ごとに多彩なキャリア教育プログラムを立案し、ポスト・コロナへの対応を計画していることは、適切であると判断できる。

【FD・SD 委員会】

(2022 年度アジェンダ)

「法人の職員研修を担当している法人職員を委員に加え、法人の研修と連携し、SD 活動を組織的に実施できる体制を検討する」としているとおおり、2022 年度は職員を対象とした SD を是非実施していただきたい。

【大学総務課】

(2022 年度アジェンダ)

「教育研究等環境設備方針」に基づき、施設のバリアフリー化、省エネルギー化などを取り入れた、環境整備政策として、2022 年度はキャンパス全体の建物の LED 化、手洗いの改修等を計画していることは評価できる。中長期的かつ具体的な設備改修計画を立て、明示すべきである。

3. 内部質保証推進IR委員会による改善指示

各組織による 2021 年度自己点検・評価は概ね妥当である。また、全学評価委員会による 2021 年度自己点検・評価の確認内容、2021 年度アジェンダ総括及び 2022 年度アジェンダの確認内容について、妥当であると判断する。各組織は、全学評価委員会の指摘・改善への助言を踏まえて、2022 年度アジェンダを推進し、改善活動を行っていただきたい。

特に 2022 年度においては、認証評価の指摘事項に基づいた改善活動、欧米文化学科における教育課程の改善活動を進めていただきたい。また学生支援の充実に向けて、組織間の有機的な連関を推進していただきたい。

なお、政治経済学科・日本文化学科の 2021 年度自己点検・評価において、自己点検・評価項目について意見が述べられている。本制度については、実施後の微修正を施すため、2 年以内の修正を行うことを制度改定時の付帯事項としている。修正時に、両学科の意見について検討いただきたい。

以上